

## 海辺のヘルスセミナーに参加して

6月10日、ラボビーチ研修センターのCMIPヘルスセミナーに相田さんと参加しました。CMIPのミッションエリアが拡大し、地区あたり一人の参加と聞きましたが総勢50名はいます。海風が心地よい竹とココヤシのセミナーハウスは学習環境としては最適で、みな熱心に薬草の話に耳を傾けメモを取っていました。



講師はG.サントス 周辺貧困地域の医療に取り組むカガペ医師。私たちにイラストを多用した自作のデ

キストを見せてくれました。できればこの冊子を当会の協力を得て印刷、配布し、普及させたいとのこと。これまでは巡回診療、入院支援等、どちらかといえば対症療法的だったミッションエリアでの医療支援。カガペ医師と連携することで**予防を重視した医療協力の道が開けそうです。**

この研修は9月と12月にも予定されています。保健ボランティアが学んだことを村で生かすのに欠かせないのが受け皿としての住民組織です。幸い、CMIPはキリスト教基礎共同体(BCC/ビサヤ語でGKK)作りに力を入れていて、セミナー参加者はこのGKKの保健ボランティアです。パササンバオ(PIHS)のような住民主体の組織とは異なりますが、このGKKが巡回診療の拠点になり、セミナー参加者も組織を通じて健康な村づくりに貢献してくれるものと期待しています。(山崎)

### <特別医療支援 - 7/17 付ジョジョのメールより>

レオポルドくん(ネフローゼ症候群):4月に一連の抗がん剤治療が終わり体調は良好、新学期から復学し、6年生のクラスに入りました。10歳で治療を開始、今年7年目です。

ヘルメニアさん(心臓弁膜症):ようやく手術の順番が来たものの、手術前の血液検査の数値が悪く延期。7月24日の再検査を待っているところです。

## セブ湖を見下ろす伝統ハウス

— チボリ女性の組合 COWHED の夢実現へ —

2004年、赤字経営のCOWHED再建を訴えて組合長になったメルチさんには、複合経営への夢がありました。寄付された土地に、ハンディクラフト店舗と研修施設を作りたいと、2005年には青写真もいただきました。

レイクセブ町はサウスコタバト州の夏の都と言われる避暑地です。高度1200mほどの丘陵に囲まれてティラピア養殖のいかだが浮かぶセブ湖があり、湖の周りには民芸品店やリゾート施設が10軒ほど並んでいます。夏休みの4、5月は観光客や研修で賑わいます。しかし、その経営者はレイクセブの人口の半分以上を占める低地人(パナイ島などのビサヤ諸島からの入植者が多いため、ビサヤ人とも言う)で、チボリ民族は資本がないために、その賑わいに指をくわえているしかありませんでした。COWHEDには各種伝統工芸品製作者が揃っていますし、主婦ですから料理はお手の物。食堂や宿泊施設ができれば雇用創出になります。

しかし、組合員の経営手腕は未知数です。当会の会員の一部にも慎重論がありました。まずティナラク織り実演と製品の展示販売を目的とする伝統ハウス建設支援が5月総会で承認され、建設が始まりました。総予算は33万円。HANDSは水周りを除く30万円を支援しました。あとは地元の寄附や組合員の責任で賄うことになっています。

観光振興を標榜するレイクセブ町もCOWHED伝統ハウスに期待を寄せています。8月下旬、HANDSスタッフ現地訪問の機会に竣工式をする予定です。

「夢の実現への一步を支援してくれたHANDSに一同感謝しています！」メルチさんのメールです。



急ピッチで進む伝統ハウス建設 6/9